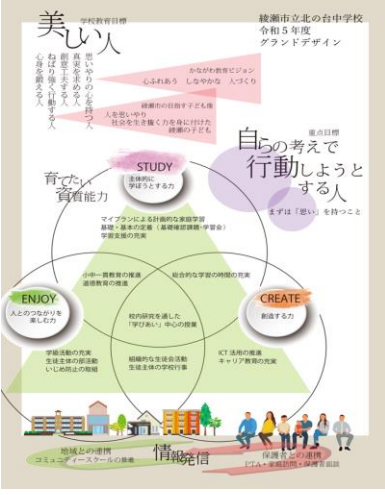


令和 6 年度 綾瀬市立 北の台中学校 学校関係者評価報告書

綾瀬市教育委員会の基本方針	(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども	
学校教育目標	美しい人 ・思いやりの心を持つ人 ・真実を求める人 ・創意工夫する人 ・ねばり強く行動する人 ・心身を鍛える人	
学校経営方針 (ブランドデザイン)		
今年度の重点目標	重点目標 自らの考えで行動しようとする人 まずは「思い」を持つこと 育てたい資質能力 ・主体的に学ぼうとする力 (STUDY) ・人とのつながりを楽しむ力 (ENJOY) ・創造する力 (CREATE)	
取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、「真実を求める人」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	昨年度と同様に7割以上の生徒が意欲的に授業に取り組み、定期テスト前も学習計画作りをはじめ積極的に学習に取り組んでいます。また、7割以上の保護者も、意欲的に学習に取り組んでいると肯定的な回答をしています。今後も生徒の学習意欲を高められるように授業研究を推し進めるとともに、家庭での学習習慣の定着をめざした具体的な支援に取り組み、自ら学び、自ら考える「真実を求める人」の育成に一層努めていきます。
2 教育課程	生徒は、学校行事や生徒会活動・部活動に積極的に参加している。	生徒・保護者ともに9割以上が、この設問に肯定的に回答しています。なかでも「そう思う」と回答した生徒・保護者ともに、増えています。様々な活動において、主体的に活動することで、達成感や充実感を味わうとともに、協力する大切さを学ぶ生徒が多くなります。今後も部活動の活性化、生徒会本部を中心とした実行委員会、専門委員会の活動の充実を目指し、主体的に行動できる生徒の育成に努めていきます。
3 児童・生徒指導	学校は、「思いやりの心を持つ人」を育てる指導を積極的に行っている。	「友人に対して思いやりの気持ちを持って接するように意識している」と肯定的に答えた生徒は88%と増えてきていますが、昨年度と比較すると「そう思う」と「ややそう思う」の割合が入れ替わり、「そう思う」と答えた生徒が減少しています。教職員で「生徒の良好な人間関係作り」に努めている」という設問に対して「そう思う」と答えた人数は20%ほど増加しました。引き続き、「特別の教科 道徳」や学級活動の時間、日々の学校生活全体を通して、互いの個性を認め合い、仲間を思いやる生徒の育成を目指し、適切な指導・支援をしていきます。
4 児童・生徒指導	生徒は友人や先生との学校生活に満足している。	9割近い生徒が学校生活を楽しく過ごしていると回答しています。「そう思う」と回答した生徒も昨年度より増えています。今後も普段の学校生活を通して、社会の一員としての公平、奉仕、公共心などのモラルを定着させるとともに、豊かな人間関係づくりに努めていきます。一方、学校生活を楽しく過ごせていない生徒がいることにも向き合い、日頃の生徒観察を行い、生徒の状態を適確に把握し、適宜、教育相談を行っていきます。また、学級活動等でソーシャルスキルトレーニングを計画的に実施し、生徒の人間関係作りをサポートしていきます。
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	8割の保護者が肯定的な回答をしています。しかし、全ての教職員が肯定的に捉えていることに比べ、保護者と教職員の間に差がみられる現状があり、引き続き、授業、道徳、学校行事など全ての教育活動を通して、生徒が互いを認めあうことができる学校・学級づくりを目指した指導に努めていきます。さらに、学校だより等で、教育相談やスクールアンケートを実施している情報を発信します。また、今後もSNSトラブル防止教育を毎学期、学級活動の時間に必ず行うことや、日常の生徒への声掛けや面談を行い、生徒との信頼関係を築き、保護者との連携をより深めて、いじめ防止教育に努めていきます。

6 保健管理	学校は、「心身を鍛える人」を育てる指導を積極的に取り組んでいる。	7割以上の生徒・保護者は自分の健康や体力に関心を持っています。今後も保健・食育指導等を充実させ、生徒の健康や体力への関心を高めていきます。学級担任、部活動顧問、養護教諭、栄養教諭、SC、SSW、保護者と連携し、心身ともに健全な生徒の育成に努めていきます。
7 安全管理、教育環境整備	学校は、生徒の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	ほぼ全ての教職員が、生徒が安全な生活を送るための指導と施設点検・整備を行っています。今後も校舎内外の点検・整備に努め、生徒の安全を確保していきます。今後は南海トラフ巨大地震を視野に入れ、災害発生時の生徒の安全を守るために、防災教育をさらに充実できるよう取り組んでいきます。
8 支援教育	学校は生徒に応じた支援の工夫をしている。	全ての教職員が生徒に応じた支援の工夫をしていると回答しています。今後も、様々な課題を持つ生徒に対して、教職員、学習支援者、SC、SSWが支援を行い、必要に応じて外部機関と連携し、必要な支援を検討し手だてを考えていきます。毎週行われている情報交換会で、課題のある生徒の現状と、必要な支援を検討し、全職員で情報共有して、一丸となって同じ方針で生徒をより支援していきます。
9 組織運営	校長を中心とした運営組織になっている。	9割以上の教員が、各グループが連携し、円滑に職務が遂行されていると回答しています。今後も教育目標の具現化を目指し、グループ会議、企画会議、職員会議、学年会議を行いながら情報の共有化を図り、組織的かつ効率的な学校運営に努めていきます。今後もグループ間の連携や情報共有も積極的に行い、全教員で教育活動を行っていきます。さらに、グランドデザイン・重点目標の達成、育てたい資質・能力の育成を目指して、各グループで取組を検討していきます。
10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	多くの教員が教師の力量を高める校内研修や授業力向上・授業改善を目指して校内研究に積極的に取り組んでいます。来年度も、教員が学習指導要領に明記された「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし、生徒一人ひとりの「知的好奇心」を育み、より学ぶ楽しさ面白さを実感し、深い学びへつなげる授業を展開していけるように校内研究を充実させていきます。また、校外の研修にも積極的に参加し、その成果を全教員で共有し力量を高めていきます。
11 教育目標・学校評価	学校は、生徒の実態を把握し、よりよい生徒の成長のための工夫をしている。	肯定的な回答は保護者が86%、教職員が100%となっています。また、「そう思う」という回答のみを比較すると保護者が11%、教職員が67%となっています。この結果から、保護者と教職員の評価に差があることがわかります。教職員の回答の背景には、日常的な教職員の見取りに加え、スクールアンケート等々により、生徒の実態把握に努めてきたことがあります。反面、保護者の回答からは、学校内での取り組み自体を伝えることができていない可能性や、取り組みの成果を実感して頂くに至っていない可能性があります。引き続き生徒の実態を把握し、より良い成長を目指した指導を行っています。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	保護者、教職員ともに9割以上が肯定的に回答しています。学校だよりや学年だよりを学校情報配信システム(C4th)でも配信することで、学校の情報を伝えることができました。また、学校だよりについては、地域回覧やホームページへの一部掲載により、学校外の方へも情報を発信することができました。今後も学校生活や授業中の様子等を積極的に発信していくとともに、分かりやすく伝える工夫に努めていきます。
【学校運営協議会からの意見及び改善策】 ・ 学年だよりで道徳の授業の感想が掲載されていてとてもよいと感じている。生徒が自分らしい感想を書けていてよい。このような感想は、どの学年でも発信しているか？ → 道徳に限らず、学年だよりや学級だよりを通して、生徒のさまざまな取り組みや感想を発信している。 → 保護者は楽しみに読んでいると思う。また、感想を通して授業が見えてくるようで良い取り組みだと感じている。 ・ 運動について、運動部やクラブチームに参加している割合はどれくらいか？ → 運動部と文化部を合わせると8割程度の生徒が部活動に所属している。運動部の方が数が多いので、5割程ではないかと思う。外で野球や水泳などの運動に取り組んでいる生徒は把握していないものの、若干名だと感じる。 → 体を動かす場所や機会が減っていることもまた課題だと感じる。		